

秋田大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画) (概要版)

1. 対象施設

大学が保有する教育・研究・医療活動の基盤となる建物、基幹設備(ライフライン)が対象。

2. 計画期間

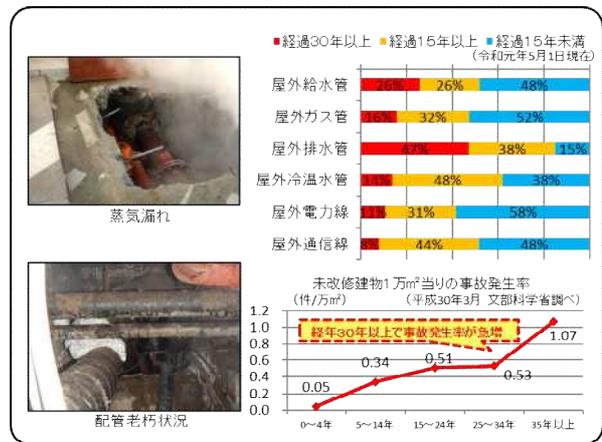
30年間。

3. 施設の実態

老朽改修の目安となる建築後 25 年を経過した建物は大学全体の保有面積 241 千 m² の 74% に当たる 177 千 m² であり、そのうち未改修で老朽化した建物が 50 千 m²(28%) 存在する。基幹設備(ライフライン)についても大半が法定耐用年数の 15 年を経過しており、更には 30 年以上経過している設備・配管もあり、事故の発生率の増加や教育・研究活動への影響が危惧される状況。



建物老朽状況図



ライフライン老朽状況図

4. 施設関連経費

施設関連予算については、運営費交付金、施設整備費補助金、施設費交付金等の外、学内予算において、施設予防保全推進経費として配分され、法令対応・安全管理・危険防止対策・建物機能保全の計画的な点検・修繕工事費に充当されている状況。

5. 長寿命化対策の優先順位の考え方

個別施設の経年・劣化状況、教育・研究活動における役割・機能の状況、緊急度の状況、影響度等を考慮し既存施設が最大限に活用できるような優先順位とする。

6. 個別施設の状態等

対象建物の建物カルテを作成し、平成 30 年度に点検調査を 11 団地、133 棟実施。基幹設備(ライフライン)については設置年が分かる基幹設備台帳を作成。

7. 長寿命化対策内容と実施時期

従来型のライフサイクル(築 30~40 年で大規模改修、築 60~65 年で改築)から長寿命化型のライフサイクル(築 20~25 年・築 60~75 年で性能維持改修(予防保全改修)、築 40~50 年で性能維持改修+機能向上改修(長寿命化改修)、築 80~100 年で改築)に変更し長寿命化を図る。

8. 長寿命化対策費用

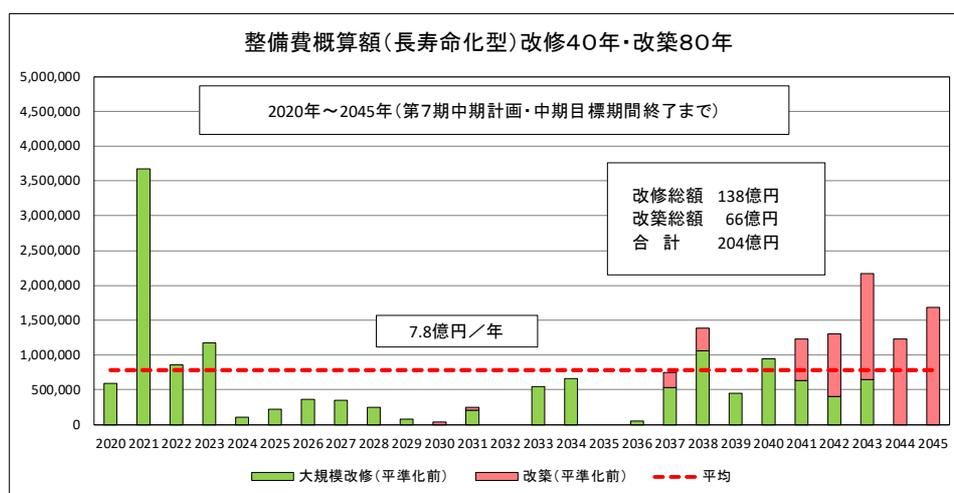
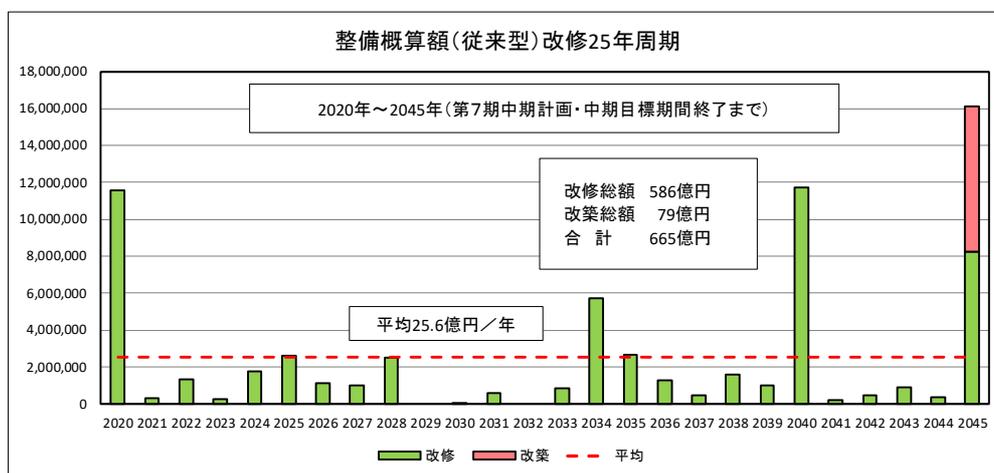
コスト縮減のため、長寿命化型のライフサイクルによる対策を行う。

○建物長寿命化対策費用

大規模改修(長寿命化改修) : 7.8 億円/年 (30 年間の総計 204 億円)
性能維持改修(予防保全改修) : 6.7 億円/年 (30 年間の総計 175 億円)

- 基幹設備(ライフライン)長寿命化対策費用
更新改修(長寿命化改修)：3.2 億円/年 (30年間の総計 84 億円)
- 年間必要経費
7.8 億円+6.7 億円+3.2 億円=17.7 億円/年 (30年間の総額 463 億円)

- 建物の大規模改修費(長寿命化改修)図
従来型のライフサイクル → 長寿命化型ライフサイクルへ変更



9. 予算の確保

長寿命化型対策を継続的に進めるためには、施設整備費補助金に頼るのみではなく、多様な財源の確保を行うことにより、計画的な進捗を実施。

- ・施設整備への活用が可能な寄附金での財源確保。
- ・スペースチャージの導入を進め対策費用を確保。
- ・スペースチャージを導入することで真に必要なスペースでの効率的な利用を図り、未利用面積の削減等により保有面積の適正化、施設のトリアージを推進。

10. 施設メンテナンスサイクルの確立

効率的で効果的な対策を進めるために施設メンテナンスサイクル(①点検・診断、計画の策定→②対策の実施→③対策効果の検証→④対策の見直し→①へ)の確立が重要。

11. フォローアップ

大学改革の推進、大学をとりまく環境の変化及び施設の急激な老朽化への対応のため、随時、本計画の見直しを行い、安全・安心な施設を維持。